

経営比較分析表（令和4年度決算）

茨城県 水戸市

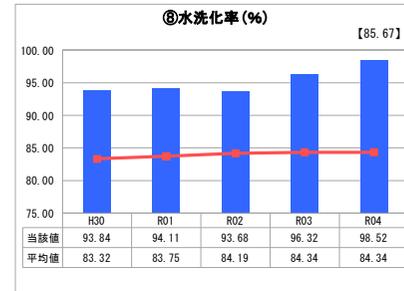
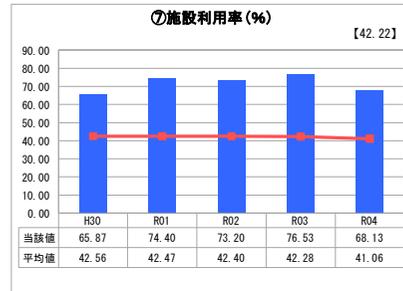
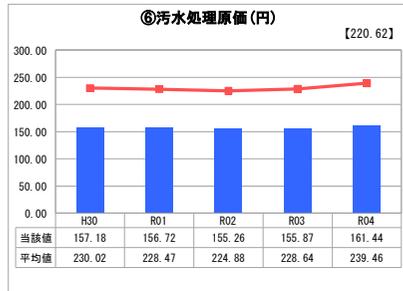
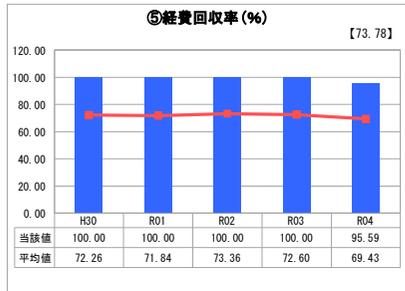
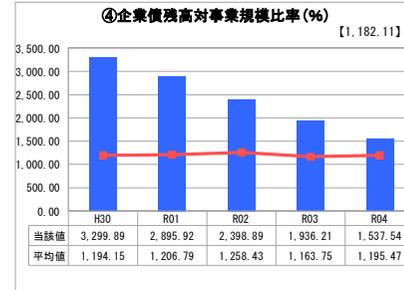
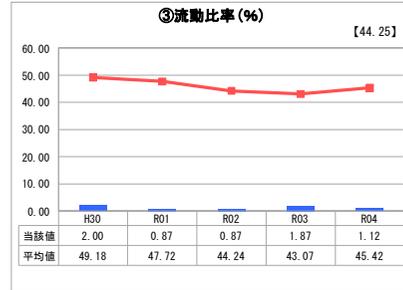
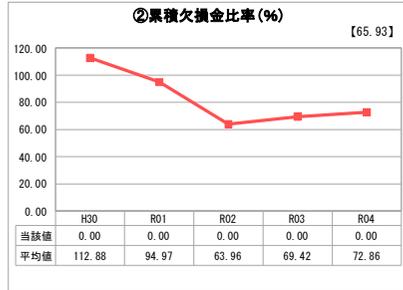
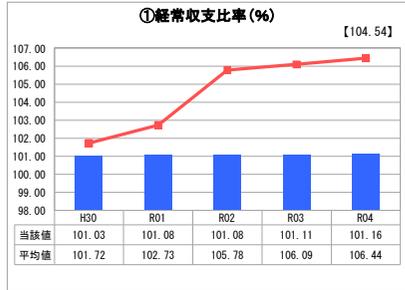
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)
-	79.02	0.40	64.51	2,989

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
270,010	217.32	1,242.45
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
1,083	0.63	1,719.05

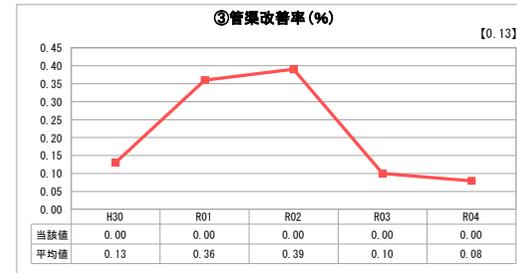
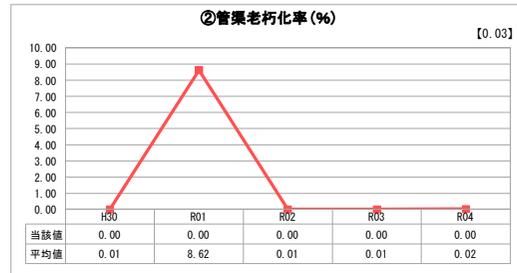
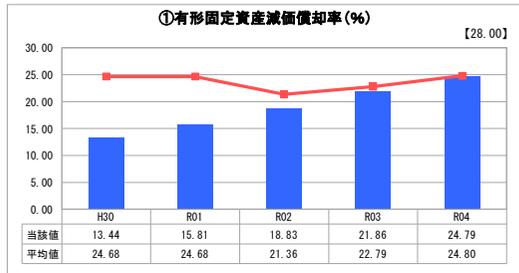
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
引き続き100%を超えているが、収益の2/3を一般会計補助金で賄っている。使用料収入の確保と維持管理費の削減に努めていく必要がある。

②流動比率
一般会計からの繰り入れは、当該年度に必要な分だけを繰り入れる方針としているため、年度末における流動資産が少なくなっている。また、企業債の元金償還が多いことも、類似団体平均値と比較して低い値となる要因である。企業債の償還が進む中で、新規借入を抑制していく必要がある。

③企業債残高対事業規模比率
類似団体平均値と比較して高い値であり、流動比率と同様、新規借入を抑制していく必要がある。

④経費回収率 ⑤汚水処理原価
燃料費等の高騰により維持管理費が増加し、使用料収入で賄えなかったため、経費回収率は100%を割り込んだ。維持管理費の削減に努めるとともに、少なくとも維持管理費は賄えるよう、使用料の水準について検討を行いたい。

⑥施設利用率 ⑦水洗化率
整備の完了から相当の年数が経過しており、施設利用率、水洗化率ともに類似団体平均値よりも高い数値となっている。水洗化率については、集計方法の精査等により、過年度よりも値が高くなった。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
法適用からの経過年数が短いため、減価償却累計額が小さく、値も低くなっている。

②管渠老朽化率 ③管渠改善率
特定環境保全下水道事業は、平成4年に事業を開始しており、管渠の耐用年数を経過していないため0%となっている。当面の間は、定期的な点検を実施し、機能保全に努める。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性について」は、企業債残高が類似団体と比較して多いことが、各指標を悪化させる大きな要因となっている。さらに、燃料費等の高騰により、費用が増加したことで、経費回収率が悪化してしまっ。使用料収入は、高い水洗化率を維持する一方で、企業の廃業等により逼迫しており、今後も、人口減少等社会情勢から減少が避けられないと考えられる。引き続き企業債残高の縮減を図りながら、経営基盤の強化に努め、将来にわたる安定的な事業体制を構築していく。

「2. 老朽化の状況について」は、耐用年数を経過した管渠がないため、現時点での老朽化の度合いや更新スケジュールを把握し、必要に応じて修繕工事を実施していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。